

茨城労働局長が「ベストプラクティス企業」を職場訪問 ～未来工業株式会社 茨城工場～

下角圭司茨城労働局長は、11月15日に「過重労働解消キャンペーン」の一環として、長時間労働の削減を始めとする「働き方改革」に積極的な取組を行っているベストプラクティス企業への職場訪問を行いました。

- 訪問日時：令和4年11月15日（火）14：00～
- 訪問企業：**未来工業株式会社 茨城工場**（常陸大宮市工業団地6番地及び8番地）

<会社概要>

- ・業種：電気設備資材、給排水・ガス設備資材、OAフロアの製造、販売
- ・創立：1965年8月
- ・資本金：70億6786万円
- ・売上高：272億円（2021年度）
- ・従業員：825名

<茨城工場概要>

- ・創業：第1工場 1987年3月
第2工場 1989年8月
第3工場 1992年10月
- ・従業員：153名
- ・生産高：77億円（2021年度）



働き方改革の取組

○業務改善提案を出すと1件500円（裏面参照）

「常に考える」という理念のもと、従業員が業務改善のアイデアを提案をすると、1件500円を支給している。

茨城工場の改善提案件数は1,795件（2021年度）

○全員、正社員

全員、正社員として働いており、定年は70歳までの選択定年制を採用している。

○所定労働時間を短く設定

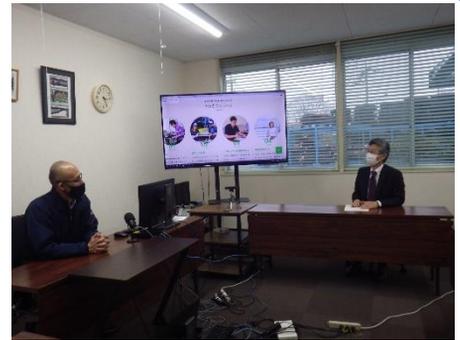
会社として、原則残業ゼロの目標を掲げているが、1日の所定労働時間も7時間15分と短く設定している。

○年間休日を多く設定（年次有給休暇、特別休暇を除く）

GW、お盆、年末年始に長期の連続休暇を設け、年間休日を139日（2022年度）で設定している。従業員の豊かなプライベートの上に仕事の充実がある＝「ライフ・ワーク・バランス」が大切という考え方。

○充実した福利厚生

- ・資格取得奨励金制度があり、資格の受験費用を会社が負担している。
- ・5年に1回全社員を対象とした海外旅行を実施している。
- ・作業服を自由化し、年1回作業服代を支給している。



塘本（とももと）工場長から働き方改革の取組について説明を受け、意見交換を行いました。

会社によると、おそらく日本一休日が多い上場企業

等



(左写真) 塘本工場長からデジタル化による作業の効率化について説明を受ける下角局長



(右写真) 塘本工場長から工場内の取組について説明を受ける下角局長

従業員からの提案その1

発注があった際、管理部門の社員が工場まで移動して、製造部門の社員にその都度、対応可否について確認を行っていたため、移動時間や応対時間を要していた。

工場にモニターを設置し、管理部門と文字情報でやりとりできるようにデジタル化を図った。また、製造部門で継続的に作業しやすくするため、タッチパネル方式とした。

移動時間等を削減

従業員からの提案その2

在庫数が下回った際、担当者が注文の可否を判断し、外注先にFAXしていたため、その確認や注文に時間を要していた。

基幹システムの需要予測に基づく数量・納期提案を確認・調整し、予め定めた在庫数を下回ると数量・納期提案が自動的に先方にFAXされる仕組みに変更した。

注文時間等を削減

<取組実績> 生産高を維持したまま、時間外労働について、2022年上半期（4月～9月）は前年同期比で**24%減少**。1人当たりの時間外労働（※）が**4.37時間/月**となった。

※ 1日7時間15分を超えて労働した時間

<労働局長のコメント>

単に労働基準関係法令を遵守するだけでなく、従業員から業務改善の提案を募り、その提案を実践し、働き方改革に取り組まれており、時間外労働削減などの効果をあげていることは、非常に評価されるべきものと考えます。日頃の小さな積み重ねが大事だということに改めて気づかされました。

また、社員を大切にする姿勢は共感できるものがあります。今後も地域の模範となるような職場づくりに取り組んでいただきたいと思います。